スキル標準ユーザー協会

Standard Skill Inventory for iCD （SSI-iCD） マネージャー用操作マニュアル

Creation Date:	2008/3/29
Last Updated:	2018/2/5
Control Number:	001
Version:	1.001

目次

システム概要 3
システム名 3
システムの目的 3
システム処理概要 4
ログイン/ログアウト 4
パスワード変更 7
タスク統計 8
タスク評価項目チェック 11
タスク評価項目チェック（役割指定） 18
個人評価項目チェック：タスク項目 20
スキルチェック 24
超絞込検索 28
個人入力内容閲覧 31
個人プロフィール 33
業務経歴閲覧 33
プロジェクト経歴閲覧 34
セミナー受講履歴閲覧 35
タスク評価項目閲覧 36
フレームワーク閲覧 38
個人情報プリントアウト 43
フレームワーク個人目標設定 44
CSV出力メニュー 46
SURVEY提出状況閲覧 47
履歴差分表示 48

システム概要

本章は、本システムについての基本事項について解説しています。

システム名

正式名称　Standard Skill Inventory for iCDシステム

英語名称　SSI-iCD

システムの目的

SSI-iCDシステムは、主に以下の４つの目的を揚げています。

- エンジニアのタスク遂行力をフレームワーク（※）上で判定
- エンジニアのタスク遂行力・スキル情報の管理
- エンジニアのプロジェクト経歴・受講履歴の管理
- エンジニア情報の検索

※フレームワークはシステム管理者機能で自由に作成が可能

システム処理概要

SSI-iCDシステムのマネージャー処理概要を以下に記述します。

ログイン/ログアウト

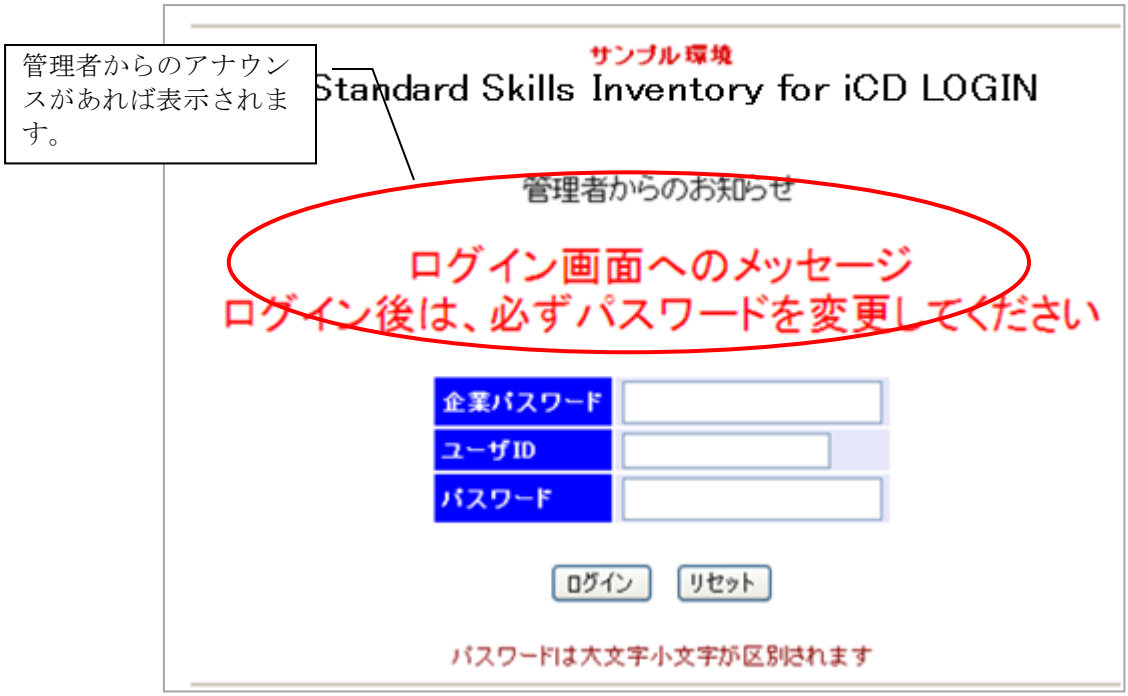
ログインID・パスワードの入力

ログインID、パスワード入力し、システムにログインします。

初期状態ではパスワードは未設定となっていますログインIDを入力してログインボタンをクリックしてください。

注意

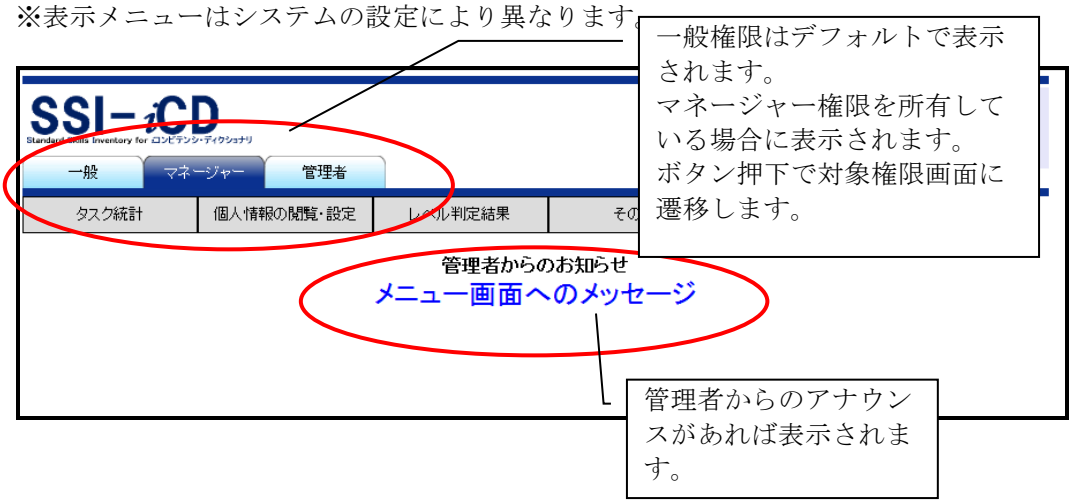
- パスワードは大文字小文字が区別されます。



メニュー画面

ログイン後に全メニューが表示され、SSI-iCDシステムの機能を利用することが可能となります。尚、画面下部にはメニューで選択した機能の画面が表示されます。

※表示メニューはシステムの設定により異なります。

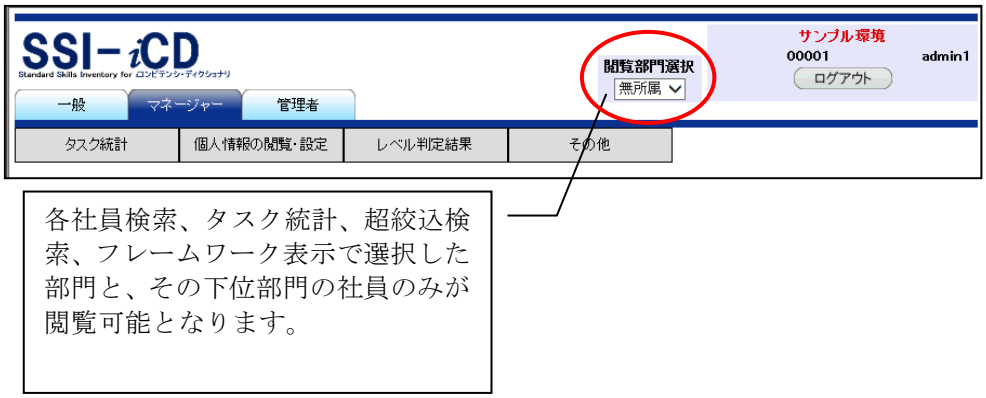


ログアウト

一旦ログインを行うと、ブラウザを閉じるまでは再ログインが不要となります。つまり、システムにアクセスすると同時にログイン画面は表示されずに、上記のメニュー画面が表示されます。従って、システムの使用を終了する場合や、別のアカウントを使って再度ログインしたい場合などは一旦ログアウトを実行します。画面左下の「ログアウト」をクリックすれば、セッション情報は削除され、ログイン画面に戻ります。

閲覧可能部門

ユーザー検索制限がONになっている場合は、閲覧可能部門をメニュー画面より設定できます。（下記画面参照）

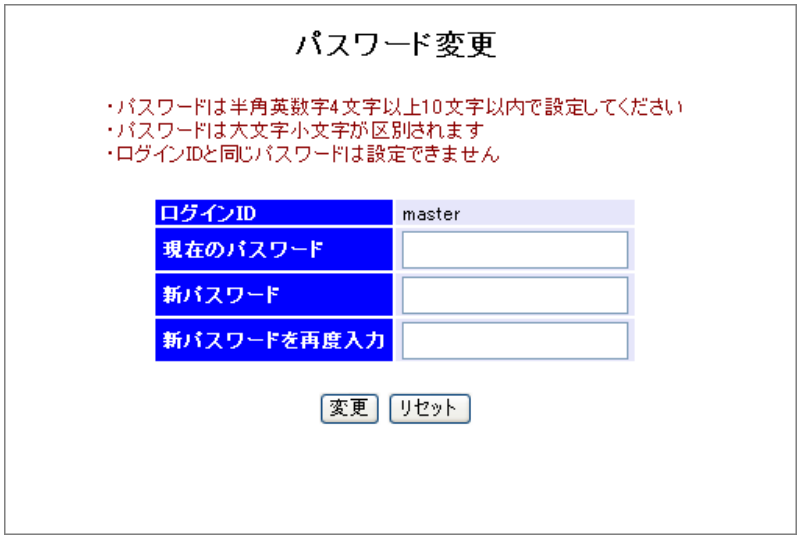


各社員検索、タスク統計、超絞込検索、フレームワーク表示で選択した部門と、その下位部門の社員のみが閲覧可能となります。

パスワード変更

パスワードを変更します。

メニューの「その他」→「パスワード変更」をクリックすると、次のような画面が表示されます。



「現在のパスワード」には現在設定されているパスワードを、「新パスワード」「新パスワードを再度入力」に新規に設定したいパスワードを入力し、「変更」ボタンをクリックします。パスワードは半角英数字4文字以上10文字以内で設定します。

注意

- パスワードは大文字小文字が区別されます。
- ログインIDと同じパスワードは設定できません。

タスク統計

部下のタスク統計を閲覧します。

メニューの「タスク統計」→「タスク統計」をクリックすると、次のような画面が表示され、タスクの一覧を閲覧することができます。

タスク統計

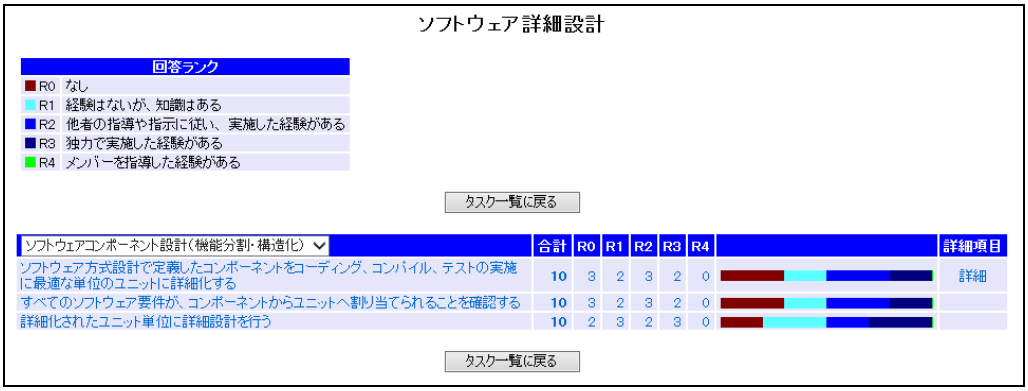
タスク	
事業戦略策定	事業環境の分析
	事業戦略の策定
	事業戦略実行体制の確立
事業戦略把握・策定支援	要求(構想)の確認
	新ビジネスモデルへの提言
	事業戦略の実現シナリオへの提言
IT製品・サービス戦略策定	市場動向の調査・分析・予測
	IT製品・サービス戦略の策定
IT戦略策定・実行推進	基本方針の策定
	IT化計画の策定
	IT戦略実行マネジメント
システム企画立案	システム化構想の立案
	システム化計画の策定
	業務・システム要件定義
	ITサービス要件定義
	情報セキュリティ要件定義
システム要件定義・方式設計	システム化要件定義
	システム化要件定義(Webサイト)
	システム方式設計
	システム方式設計(Webサイト)
	開発準備
	開発準備(アジャイル)
運用設計	システム運用設計
	ITサービス設計
	Webサイト運用設計
移行設計	移行設計

閲覧するタスクをクリックします。

タスク統計閲覧

タスク統計の閲覧を行います。

タスク画面の「タスク」をクリックすると、次のような画面が表示され、タスク統計を閲覧することができます。



詳細情報を閲覧する場合は「詳細あり」をクリックします。「レベル、人数メモリ」をクリックすると該当するユーザーを閲覧することができます。

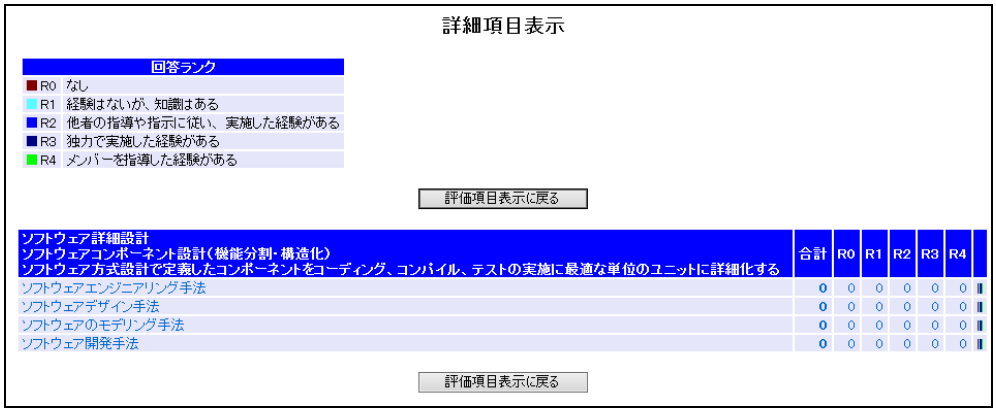
他のタスクの統計を閲覧する場合は、タスクタイトルのセレクトボックスを変更すると、閲覧することができます。

※詳細情報の扱い方によって、以下の閲覧は行うことはできません。各扱い方については、「タスク評価項目チェック」を参照ください。

詳細情報閲覧

詳細情報の閲覧を行います。

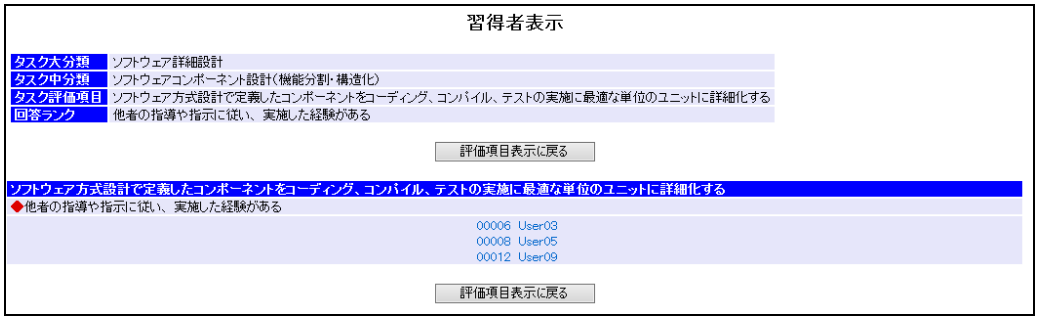
タスク評価項目閲覧画面の「詳細あり」をクリックすると、次のような画面が表示され、詳細情報を閲覧することができます。



該当ユーザー閲覧

該当するユーザーの閲覧を行います。

詳細情報閲覧画面の「詳細項目や、人数」をクリックすると、次のような画面が表示され、選択した項目に該当するユーザーを閲覧することができます。



「ユーザー」をクリックすると該当するユーザー個人情報を閲覧することができます。

個人評価項目チェック

部下の入力したタスク評価項目情報をチェック・修正します。

メニューの「タスク統計」→「個人評価項目チェック」をクリックすると、次のような画面が表示され、チェック対象者を検索することが出来ます。

チェックを行いたい社員をクリックします。

チェックタスクの選択

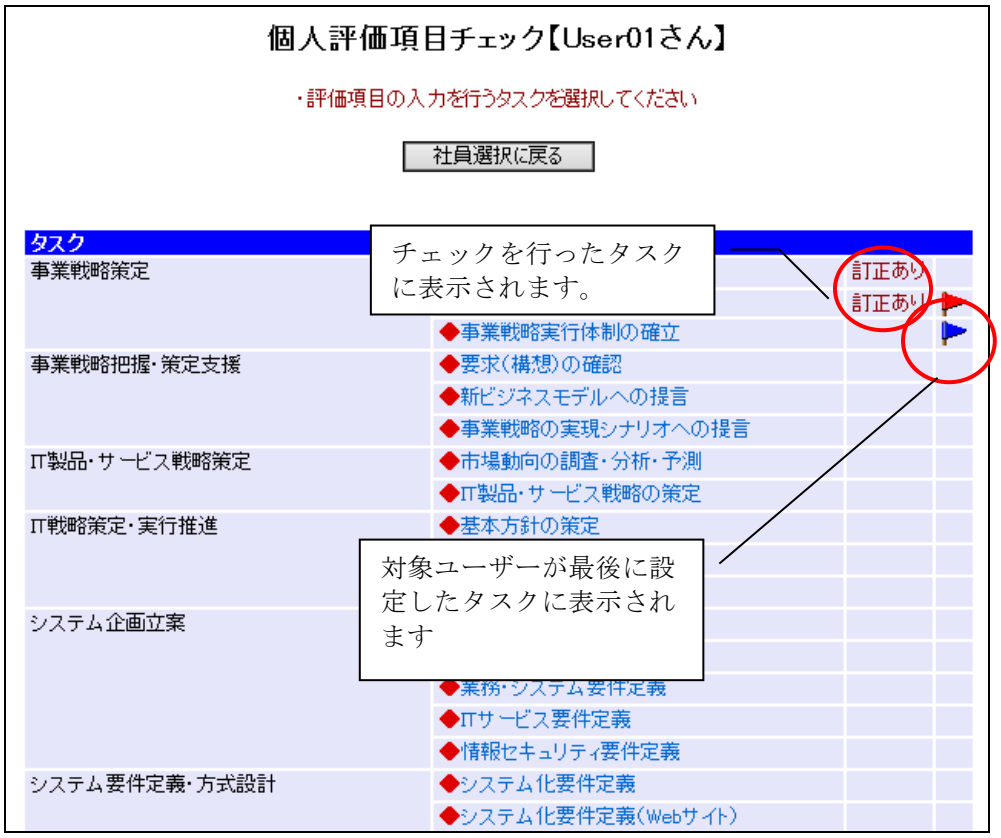
タスク評価項目チェックを行います。

チェックを行いたいタスクを選択してください。既にチェックを行っているタスクには、右端に「訂正あり」の表示が出ます。

備考

更新旗については、「タスク評価項目：更新旗設定」によって表示条件が変わります。

モード	モード概要
1	最後に更新を行ったタスクに旗が立つ
2	「設定」を実施したタスク全てに旗が立つ （旗のクリアが可能）



登録タスクのチェック

タスク評価項目チェックを行います。

背景が薄い青色になっている部分が本人登録の回答ランクであり、赤色になっている部分がマネージャー登録の回答ランクです。マネージャーにより登録が行われた場合には、本人のメニュー画面に登録が行われた旨のメッセージが表示されます。

詳細情報をチェックしたい場合には「詳細あり」リンクをクリックしてください。

詳細情報をチェックする場合「詳細あり」をクリックします。
※以下の画面は、詳細情報の表示・設定内容によって表示内容が変更されます。

詳細情報の扱いのモードとその概要は、以下の通りです。

モード	モード概要
1	詳細回答ランクの登録を行う。
2	詳細参照情報として活用
3	使用しない。

登録詳細情報のチェック

詳細情報チェックを行います。

画面の内容は「タスクのチェック」と同様です。

ロック機能

タスク評価項目の入力中は、選択したタスクに対して他ユーザーが同時に更新できないようロックがかかります。
チェック中の社員本人が選択したタスクを設定中の場合は次のような画面が表示され登録内容の閲覧のみが可能になります。
※本機能は、モード１の場合のみ発生します。

詳細情報についても、ロック中は詳細情報登録内容の閲覧のみが可能になります。

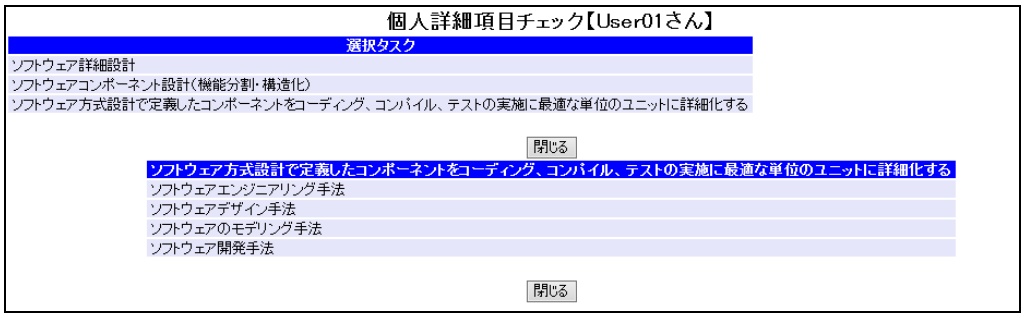
注意点

タスク評価項目情報のチェック中は選択したタスクに対してロックをかけている状態になります。ブラウザの「戻る」（ヒストリーバック機能）で画面遷移させると一定時間ロックがかかった状態になってしまいますので「設定」、「分類選択に戻る」クリックを行うようにしてください。

詳細情報入力（モード２）

参照情報の閲覧を行います。

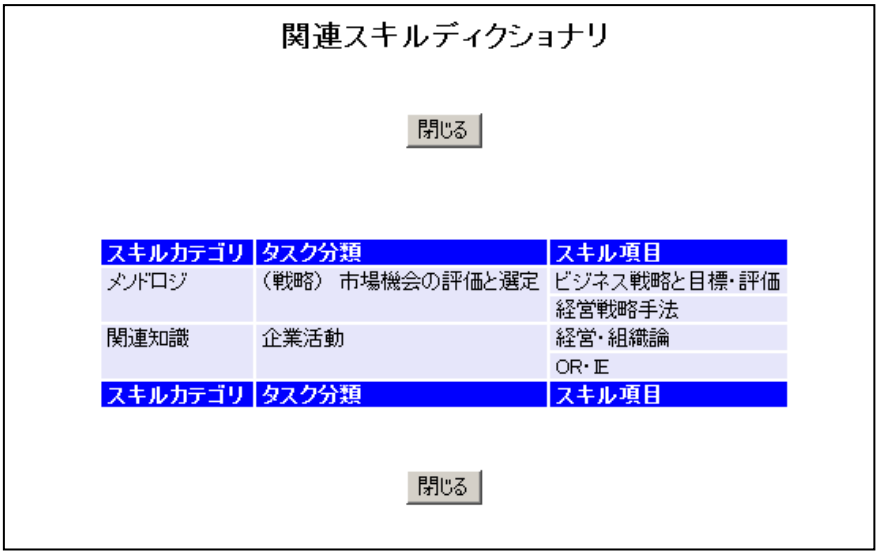
タスク評価項目入力画面の「詳細あり」をクリックすると、次のような画面が表示され参照情報を閲覧することができます。



関連スキルディクショナリ

関連するスキルディクショナリの閲覧を行います。

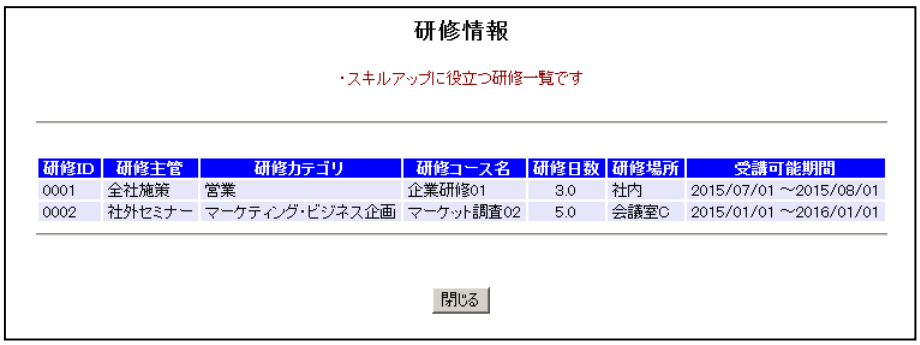
タスク評価項目入力画面の「 」をクリックすると、次のような画面が表示されタスクに関連するスキルディクショナリを閲覧することができます。



研修情報

関連する研修情報の閲覧を行います。

タスク評価項目入力画面の「タスクに関連する研修情報を表示します」の表示ボタンをクリックすると、次のような画面が表示されタスクに関連する研修を閲覧することができます。



研修情報

・スキルアップに役立つ研修一覧です

研修ID	研修主管	研修カテゴリ	研修コース名	研修日数	研修場所	受講可能期間
0001	全社施策	営業	企業研修01	3.0	社内	2015/07/01 ～2015/08/01
0002	社外セミナー	マーケティング・ビジネス企画	マーケット調査02	5.0	会議室C	2015/01/01 ～2016/01/01

閉じる

個人評価項目チェック（役割指定）

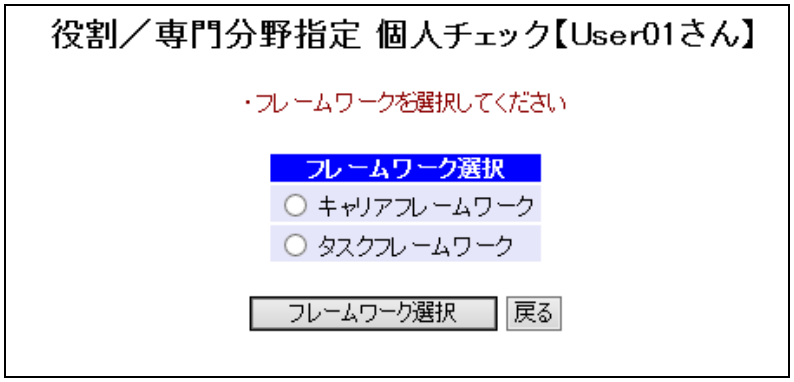
部下の入力したタスク評価項目情報を役割で限定し、チェック・修正します。

メニューの「タスク統計」→「個人評価項目チェック（役割指定）」をクリックすると、次のような画面が表示され、チェック対象者を検索することが出来ます。

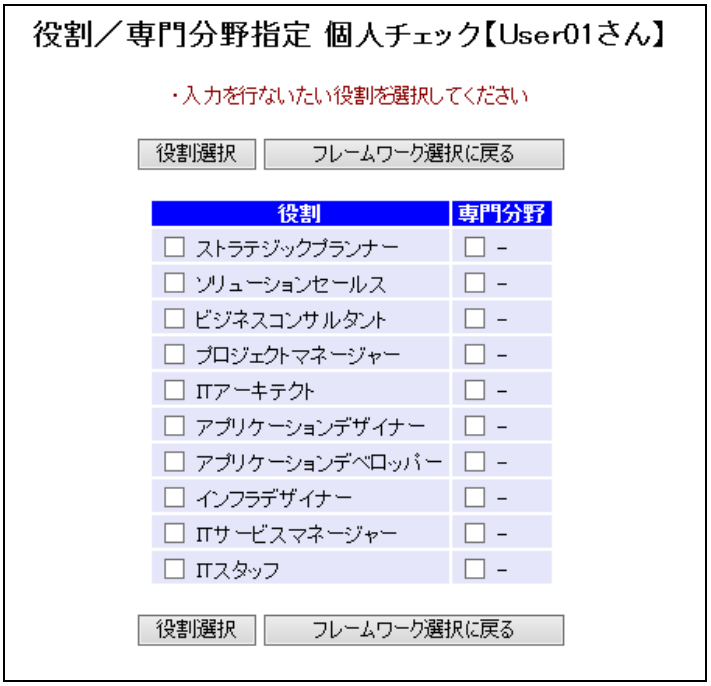
チェックを行いたい社員をクリックします。

フレームワークの選択

チェックを行いたいフレームワークを選択してください。



チェックを行うフレームワークを選択し、「フレームワーク選択」をクリックすると次のような画面が表示され、役割を閲覧・選択することができます。



チェックを行う役割を選択し、「選択」をクリックするとその役割に条件として設定されているタスク一覧が表示されます。

※ユーザーが既に入力済みの場合、ユーザーが選択した役割に対してチェックが入った状態で表示がされます。

チェックしたいタスクをクリックすると、タスク評価項目チェック画面に遷移します。

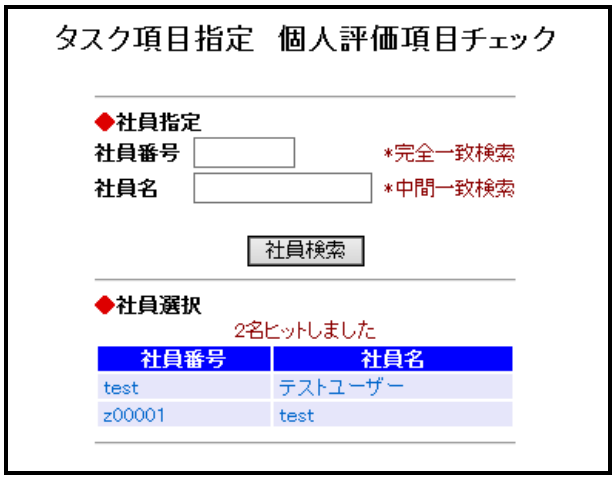
※選択した、役割のレベル判定条件になっているタスク以外は表示されません

タスク評価項目・詳細情報のチェックについては「タスク評価項目チェック」のタスク評価項目のチェックと同様になります。参照下さい。

個人評価項目チェック：タスク項目

部下の入力したタスク項目レベル情報を役割単位で限定し、チェック・修正します。

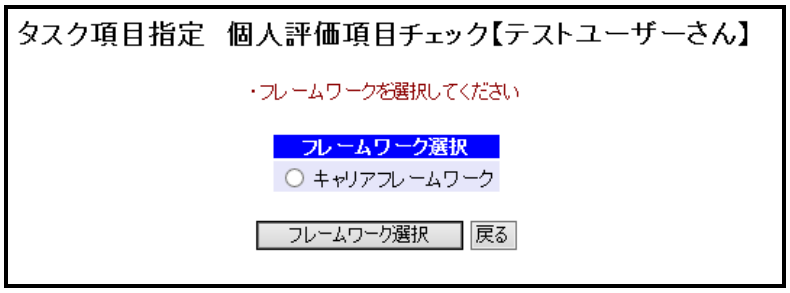
メニューの「個人評価項目チェック：タスク項目」をクリックすると、次のような画面が表示され、チェック対象者を検索することが出来ます。



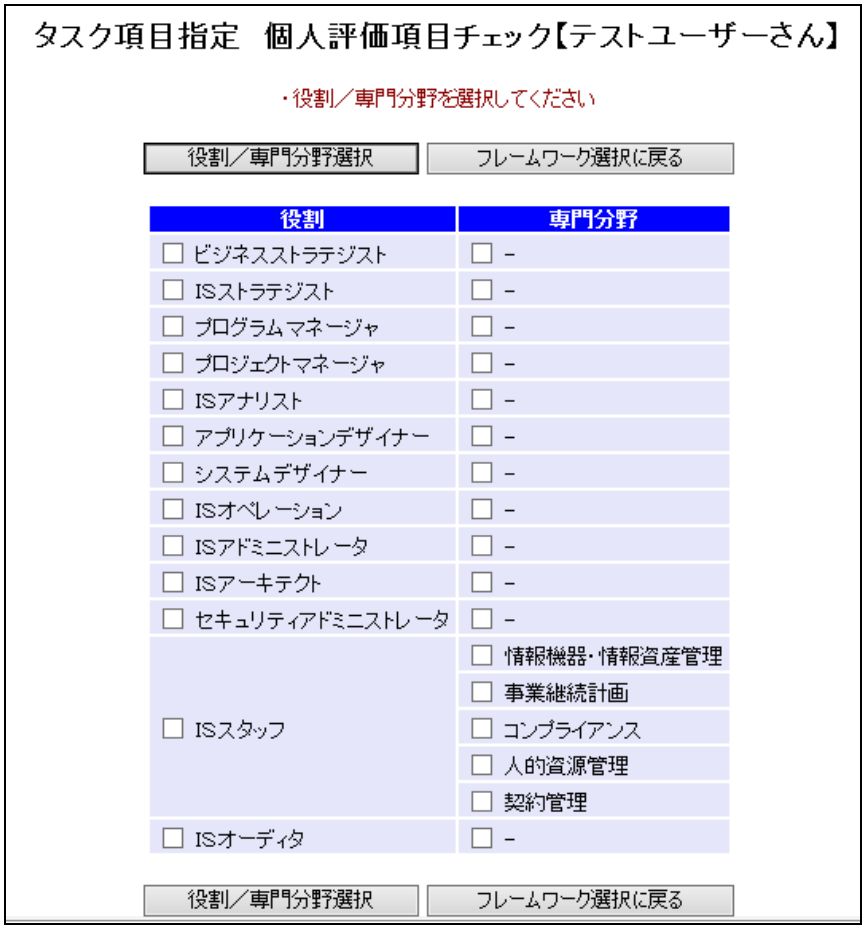
チェックを行いたい社員をクリックします。

フレームワークの選択

チェックを行いたいフレームワークを選択してください。

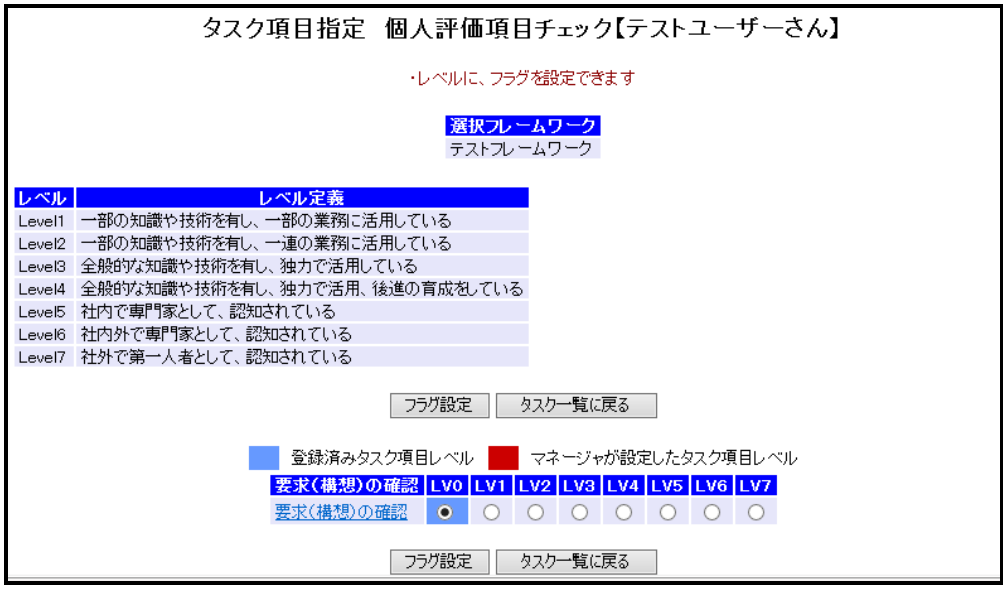


チェックを行うフレームワークを選択し、「フレームワーク選択」をクリックすると次のような画面が表示され、役割／専門分野を閲覧・選択することができます。



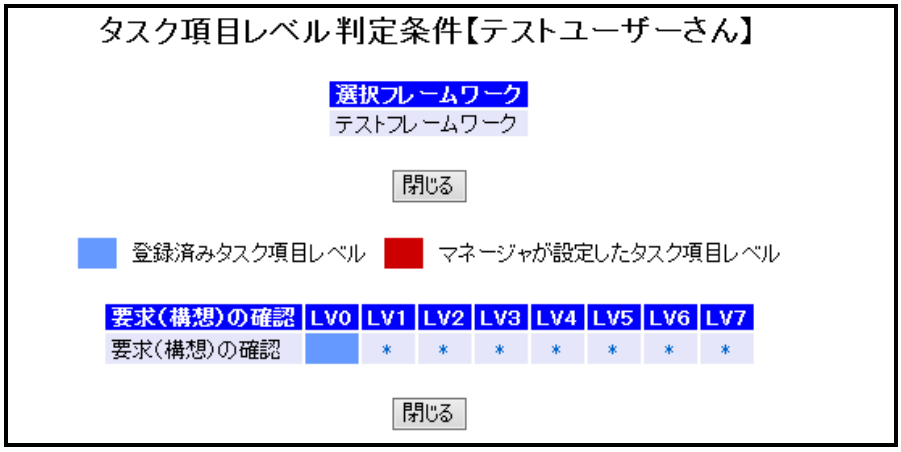
チェックを行う役割/専門分野を選択し、「役割/専門分野選択」をクリックするとタスク一覧が表示されます。選択した役割/専門分野に必要なタスクのみ選択できるようになっています。

チェックしたいタスクをクリックすると、次のような画面を表示され、タスク項目レベルチェックを行うことができます。

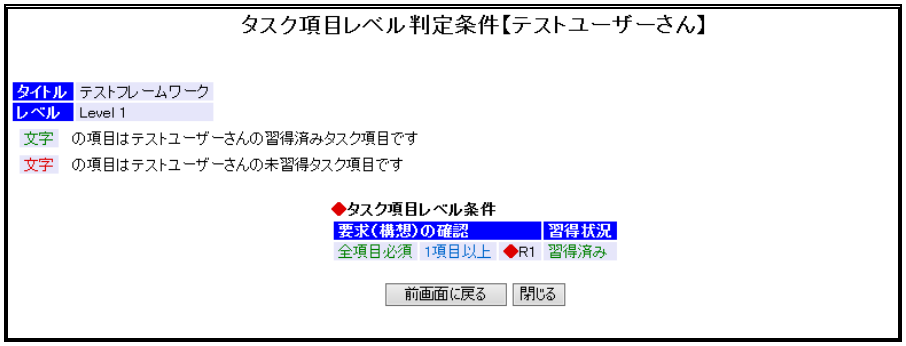


「フラグ設定」ボタンをクリックで、タスク項目レベルを設定することができます。

また、レベル条件を閲覧する場合は、各タスクのリンクをクリックすると、以下の画面がポップアップで表示され、レベル条件を閲覧することができます。



レベルをクリックすると以下の画面が表示され、レベルグループ条件を閲覧することができます。



条件グループリンクをクリックすると、以下の画面が表示されレベル条件の詳細を閲覧することができます。

タスク項目レベル判定条件【テストユーザーさん】

タイトル テストフレームワーク
レベル Level 1

文字 の項目はテストユーザーさんの習得済みタスク項目です
文字 の項目はテストユーザーさんの未習得タスク項目です

◆タスク項目レベル条件

要求(構想)の確認				レベル条件	回答ランク
1項目以上	要求(構想)の確認	要求(構想)の確認	企業目標、中長期構想など経営レベルの要求を正確に捉えることができる	R1	R1
			企業の内外環境を正確に捉え、全社戦略指針を提案できる	R1	未回答
			収集した情報から現状のリソース(ヒト、モノ、カネ、情報)に関する課題の抽出ができる	R1	R1

前画面に戻る 閉じる

スキルチェック

スキルチェックを行います。

チェックを行いたいスキルを選択してください。既にチェックを行っているスキルには、右端に「訂正あり」の表示が出ます。

備考

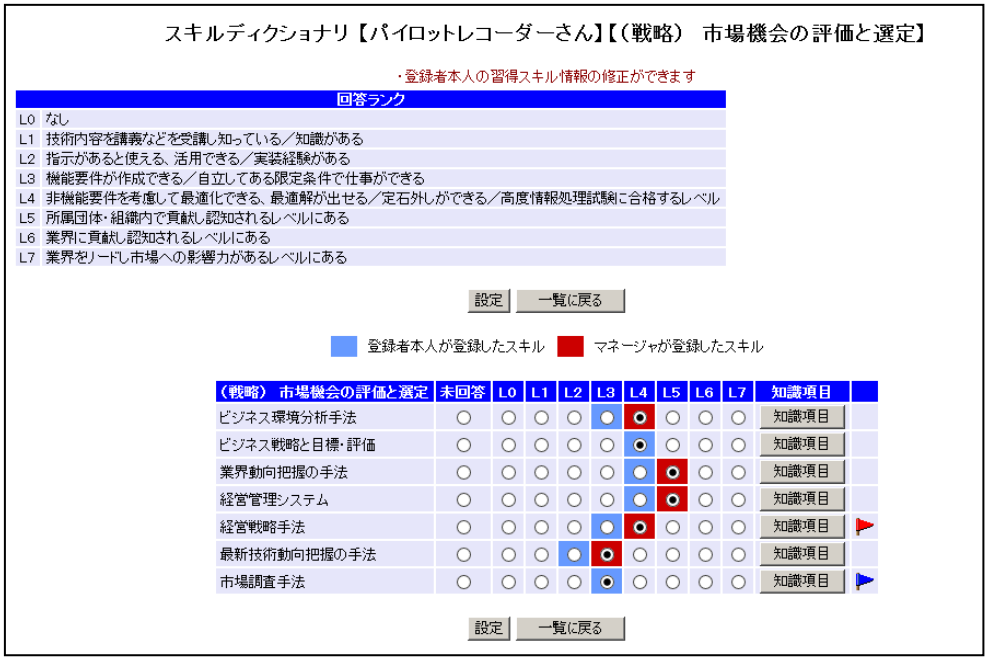
更新旗については、「スキル：更新旗設定」によって表示条件が変わります。

モード	モード概要
1	最後に更新を行ったスキルに旗が立つ
2	「設定」を実施したスキル全てに旗が立つ （旗のクリアが可能）

登録スキルのチェック

スキルチェックを行います。

背景が薄い青色になっている部分が本人登録の回答ランクであり、赤色になっている部分がマネージャー登録の回答ランクです。マネージャーにより登録が行われた場合には、本人のメニュー画面に登録が行われた旨のメッセージが表示されます。



備考

知識項目の表示を行う場合「知識項目」をクリックします。

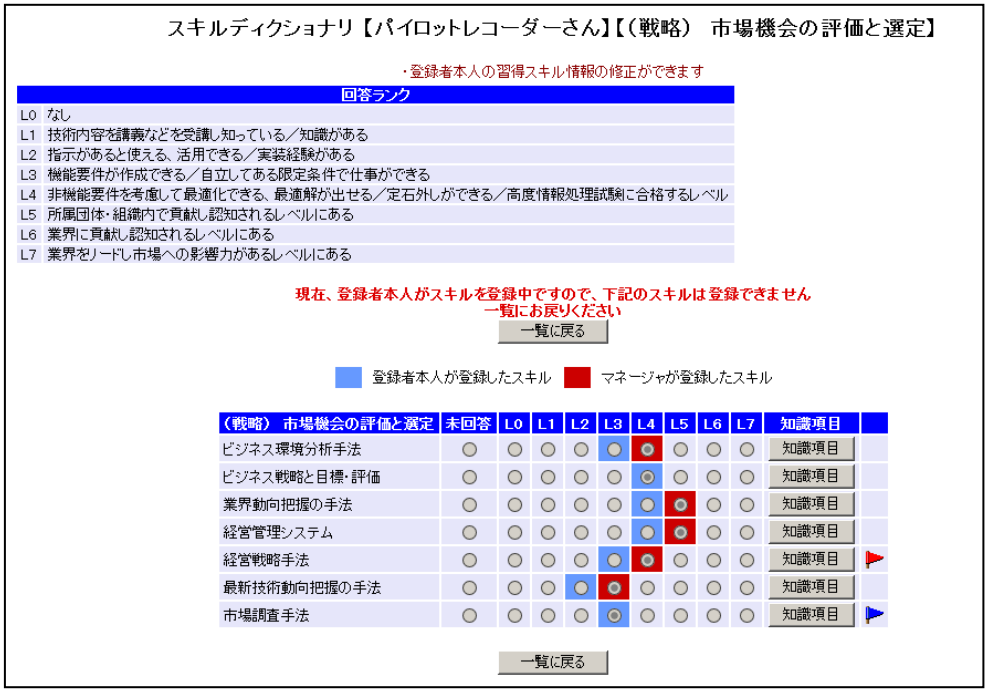
知識項目表示

知識項目の表示を行います。

スキル入力画面の「知識項目」をクリックすると、次のような画面が表示され、知識項目を表示することができます。

ロック機能

スキルの入力中は、選択したスキルに対して他ユーザーが同時に更新できないようロックがかかります。
チェック中の社員本人が選択したスキルを設定中の場合は次のような画面が表示され登録内容の閲覧のみが可能になります。



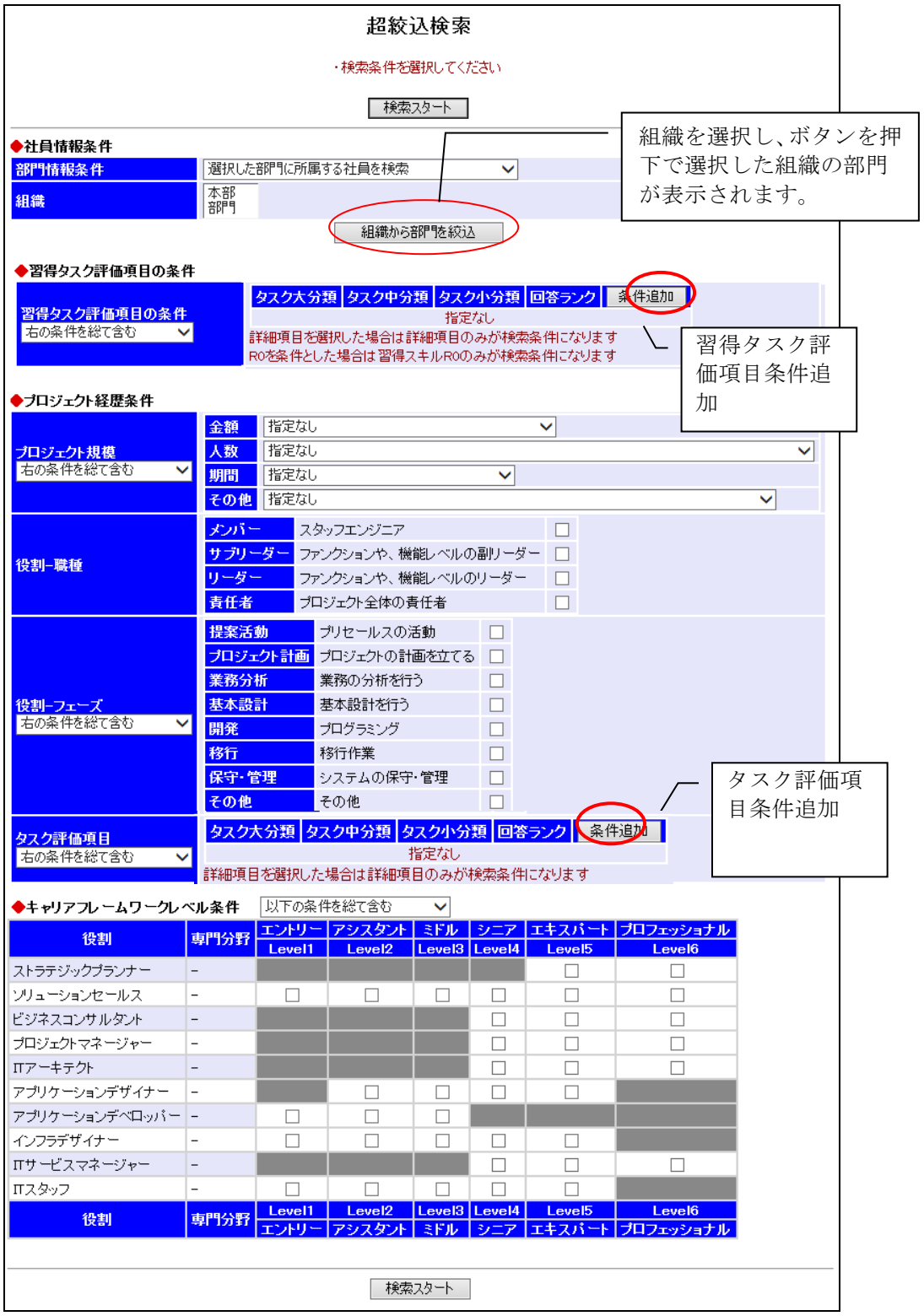
注意点

スキル入力中は選択したスキルに対してロックをかけている状態になります。ブラウザの「戻る」（ヒストリーバック機能）で画面遷移させると一定時間ロックがかかった状態になってしまいますので「設定」、「一覧に戻る」クリックを行うようにしてください。

超絞込検索

部下の情報を所属部門・プロジェクト経歴・フレームワークレベル条件から検索を行います。

メニューの「個人情報の閲覧・設定」→「超絞込検索」をクリックすると次のような画面が表示されます。



プロジェクト経歴のタスク評価項目を検索条件とする場合は「条件追加」ボタンをクリックすると、次のような画面が表示され、タスク評価項目を検索条件に追加することができます。（追加した内容を削除する場合は「削除」ボタンをクリックします）

詳細情報がある場合はボタンが表示される。
※詳細モード１の場合のみ

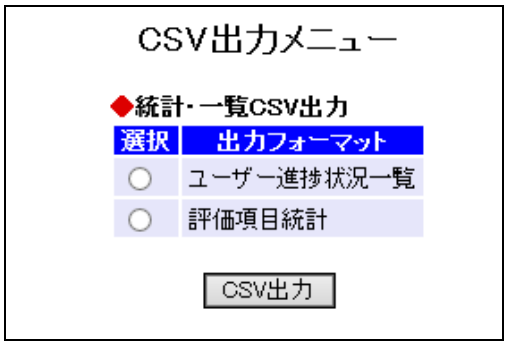
※　習得タスク評価項目を検索条件とする場合も、画面操作は同様です。
　　また、条件とできるタスク評価項目数は40件までとなります。

「検索スタート」ボタンをクリックすると、次のような画面が表示され、検索結果が閲覧することができます。

検索結果の「社員番号、ユーザー」をクリックするとそのユーザーの個人情報を閲覧することができます。

個人情報メニューは「個人情報メニュー」と同様です。

検索結果の「CSV出力」をクリックすると、次のような画面が表示され、出力CSVフォーマットを選択することが出来ます。

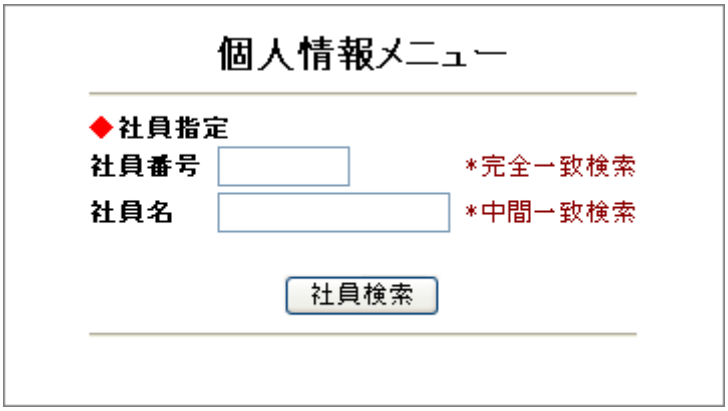


「CSV出力」をクリックで選択したフォーマットでCSVファイルを出力します。

個人入力内容閲覧

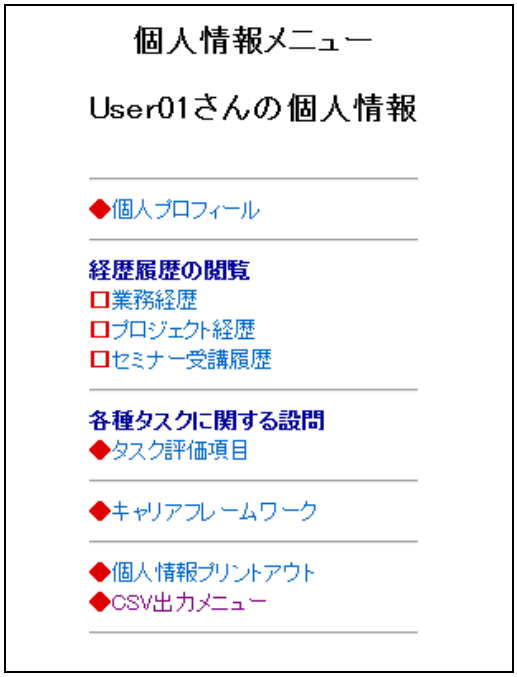
部下の個人情報閲覧を行います。

メニューの「個人情報の閲覧・設定」→「個人入力内容閲覧」をクリックすると次のような画面が表示されます。



「社員検索」ボタンをクリックすると、次のような画面が表示され、検索結果が閲覧することができます。

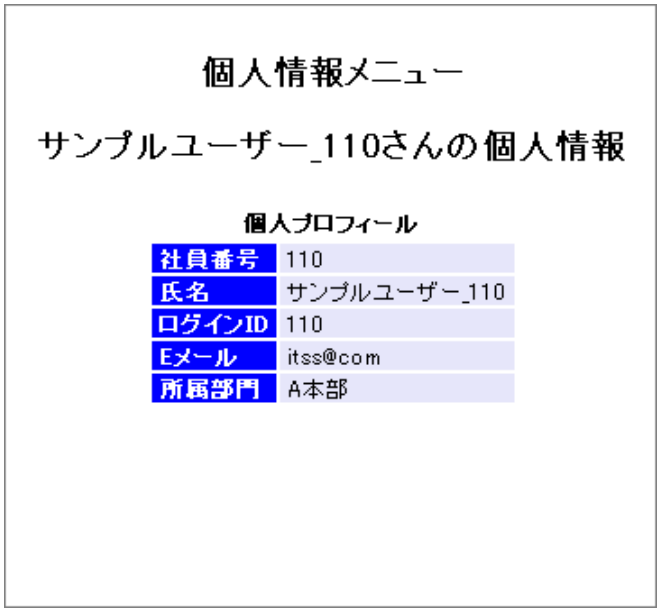
個人情報メニューの「ユーザー」をクリックすると、次のような画面が表示され、個人情報を閲覧することができます。



個人プロフィール

プロフィールを閲覧します。

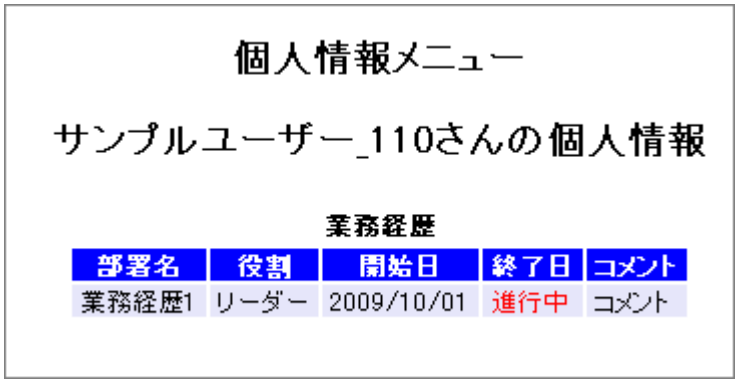
個人情報メニューの「個人プロフィール」をクリックすると次のような画面が表示されます。



業務経歴閲覧

業務経歴の閲覧を行います。

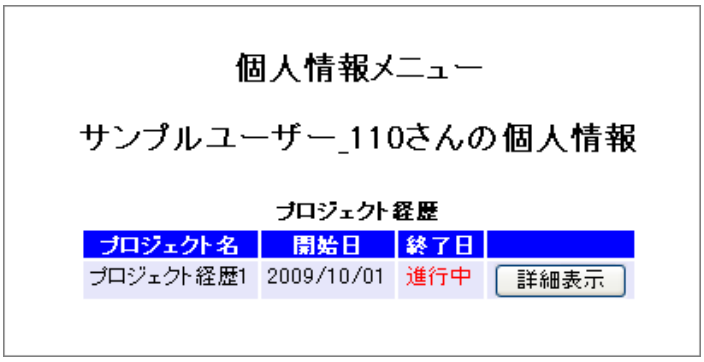
個人情報メニューの「業務経歴」をクリックすると、次のような画面が表示され、業務経歴の一覧を閲覧することができます。



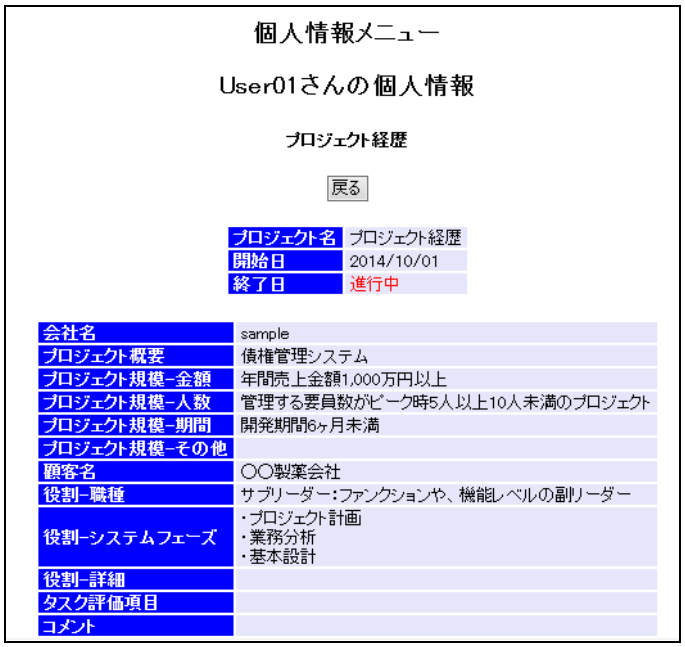
プロジェクト経歴閲覧

プロジェクト経歴の閲覧を行います。

個人情報メニューの「プロジェクト経歴」をクリックすると、次のような画面が表示され、プロジェクト経歴の一覧を閲覧することができます。



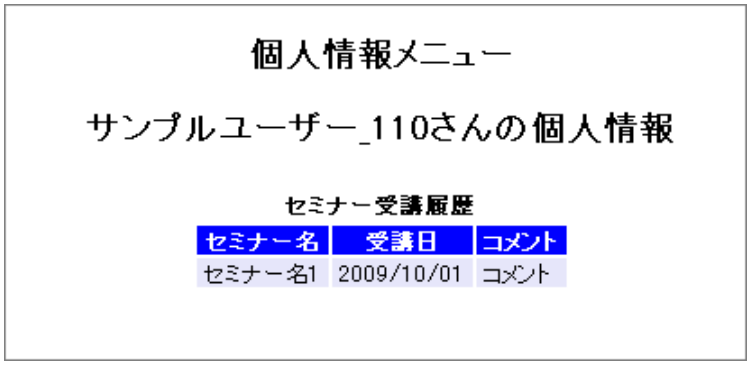
プロジェクト経歴一覧の「詳細表示」ボタンををクリックすると、次のような画面が表示され、プロジェクト経歴詳細を閲覧することができます。



セミナー受講履歴閲覧

セミナー受講履歴の閲覧を行います。

個人情報メニューの「セミナー受講履歴」をクリックすると、次のような画面が表示され、セミナー受講履歴の一覧を閲覧することができます。



タスク評価項目閲覧

タスク評価項目の閲覧を行います。

個人情報メニューの「タスク評価項目」をクリックすると、次のような画面が表示され、タスクの一覧を閲覧することができます。マネージャー・管理者に訂正されているタスクは「訂正あり」が表示されます。

個人情報メニュー

User01さんの個人情報

タスク評価項目

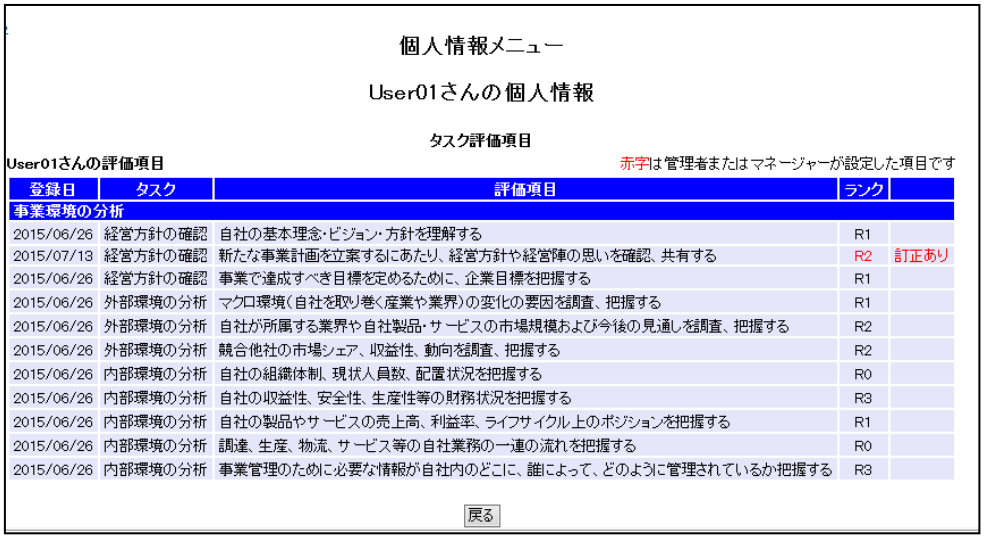
タスク			
事業戦略策定	◆事業環境の分析	訂正あり	
	◆事業戦略の策定	訂正あり	
	◆事業戦略実行体制の確立		
事業戦略把握・策定支援	◆要求(構想)の確認		
	◆新ビジネスモデルへの提言		
	◆事業戦略の実現シナリオへの提言		
IT製品・サービス戦略策定	◆市場動向の調査・分析・予測		
	◆IT製品・サービス戦略の策定		
IT戦略策定・実行推進	◆基本方針の策定		
	◆IT化計画の策定		
	◆IT戦略実行マネジメント		
システム企画立案	◆システム化構想の立案		
	◆システム化計画の策定		
	◆業務・システム要件定義		
	◆ITサービス要件定義		
	◆情報セキュリティ要件定義		
システム要件定義・方式設計	◆システム化要件定義		
	◆システム化要件定義(Webサイト)		
	◆システム方式設計		
	◆システム方式設計(Webサイト)		

閲覧するタスクをクリックします。

タスク評価項目閲覧

タスク評価項目の閲覧を行います。

タスク画面の「タスク」をクリックすると、次のような画面が表示され、タスク評価項目の一覧を閲覧することができます。



個人情報メニュー

User01さんの個人情報

タスク評価項目

User01さんの評価項目　　赤字は管理者またはマネージャーが設定した項目です

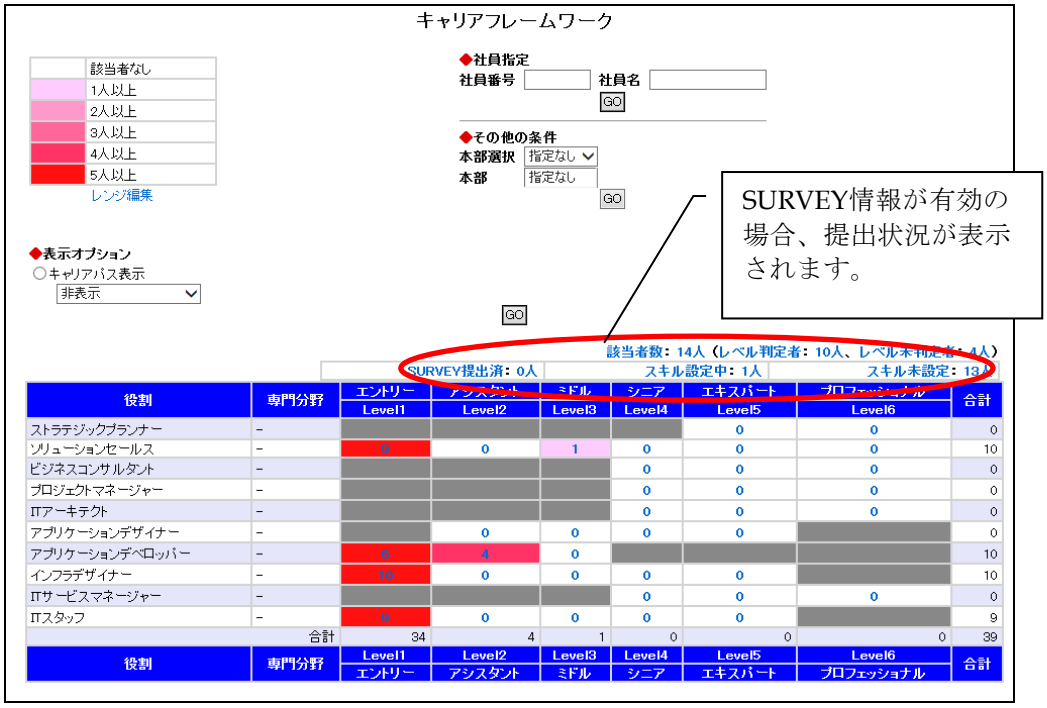
登録日	タスク	評価項目	ランク	
事業環境の分析				
2015/06/26	経営方針の確認	自社の基本理念･ビジョン･方針を理解する	R1	
2015/07/13	経営方針の確認	新たな事業計画を立案するにあたり、経営方針や経営陣の思いを確認、共有する	R2	訂正あり
2015/06/26	経営方針の確認	事業で達成すべき目標を定めるために、企業目標を把握する	R1	
2015/06/26	外部環境の分析	マクロ環境(自社を取り巻く産業や業界)の変化の要因を調査、把握する	R1	
2015/06/26	外部環境の分析	自社が所属する業界や自社製品･サービスの市場規模および今後の見通しを調査、把握する	R2	
2015/06/26	外部環境の分析	競合他社の市場シェア、収益性、動向を調査、把握する	R2	
2015/06/26	内部環境の分析	自社の組織体制、現状人員数、配置状況を把握する	R0	
2015/06/26	内部環境の分析	自社の収益性、安全性、生産性等の財務状況を把握する	R3	
2015/06/26	内部環境の分析	自社の製品やサービスの売上高、利益率、ライフサイクル上のポジションを把握する	R1	
2015/06/26	内部環境の分析	調達、生産、物流、サービス等の自社業務の一連の流れを把握する	R0	
2015/06/26	内部環境の分析	事業管理のために必要な情報が自社内のどこに、誰によって、どのように管理されているか把握する	R3	

戻る

フレームワーク閲覧

部下のレベル判定結果を閲覧します。

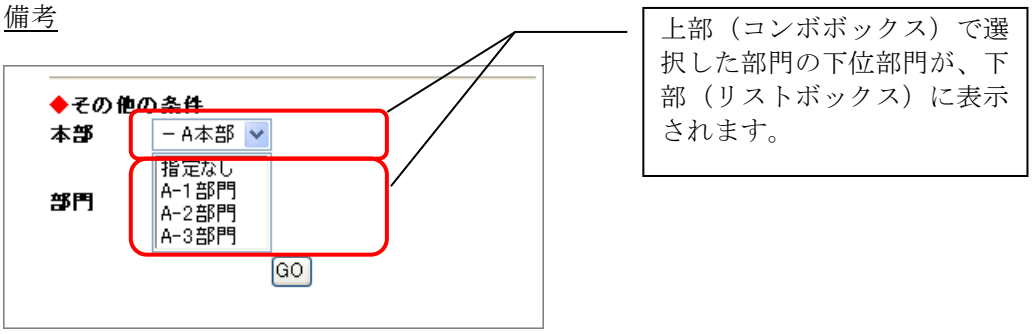
メニューの「レベル判定結果」→「フレームワーク名」をクリックすると、次のような画面が表示され、フレームワークを閲覧できます。



各レベルをクリックすると、レベル判定条件を閲覧することができます。

また、「その他の条件」を選択することで、各部門のフレームワークを閲覧することができます。（備考参照）

<u>備考</u>

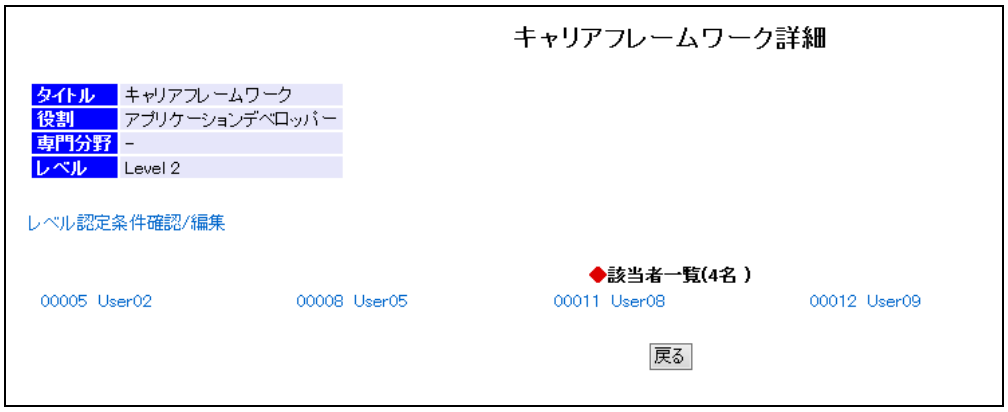


上部を選択し、下部が「指定なし」もしくは未選択ならば選択した部門とその下位に属する部門総てのフレームワークが表示されます。

また、下部の部門が指定されているならば、選択された部門のフレームワークが表示されます。

フレームワーク詳細

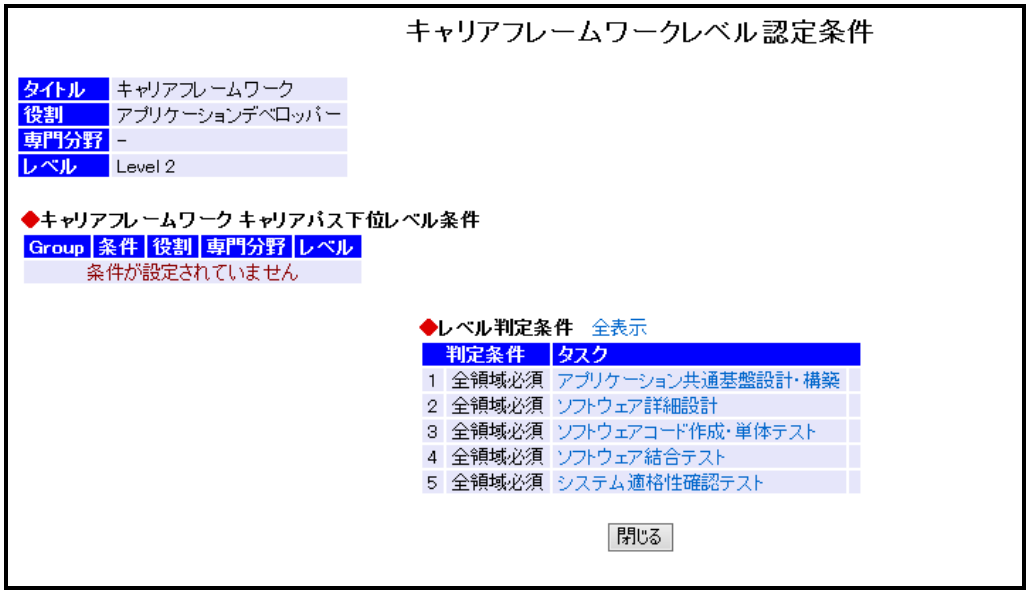
レベル判定条件の閲覧を行います。



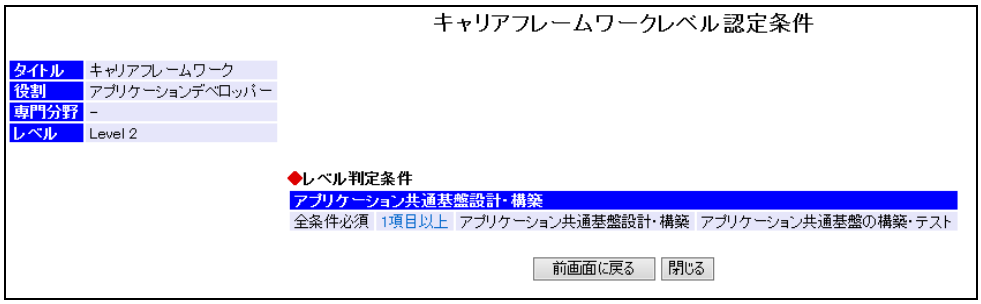
レベル判定条件

レベル判定条件の閲覧を行います。

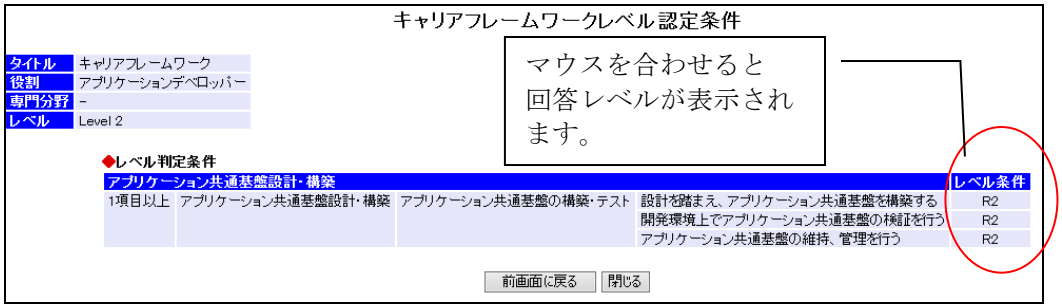
フレームワーク詳細の「レベル判定条件確認」をクリックすると、次のような画面が表示され、レベル判定条件のタスク一覧を閲覧することができます。



各タスクをクリックすると次のような画面が表示され、クリックしたタスクの条件を一覧で閲覧することができます。



「n項目以上」をクリックすると次のような画面が表示され、クリックしたタスク評価項目単位での習得状況を閲覧することができます。



レベル判定条件（全表示）

レベル判定条件を一覧で閲覧を行います。

レベル判定条件画面の「全表示」をクリックすると、次のような画面が表示され、レベル判定条件を一覧で閲覧することができます。

キャリアフレームワークレベル認定条件

タイトル	キャリアフレームワーク
役割	アプリケーションデベロッパー
専門分野	-
レベル	Level 2

◆キャリアフレームワーク キャリアパス下位レベル条件

Group	条件	役割	専門分野	レベル
条件が設定されていません				

◆レベル判定条件

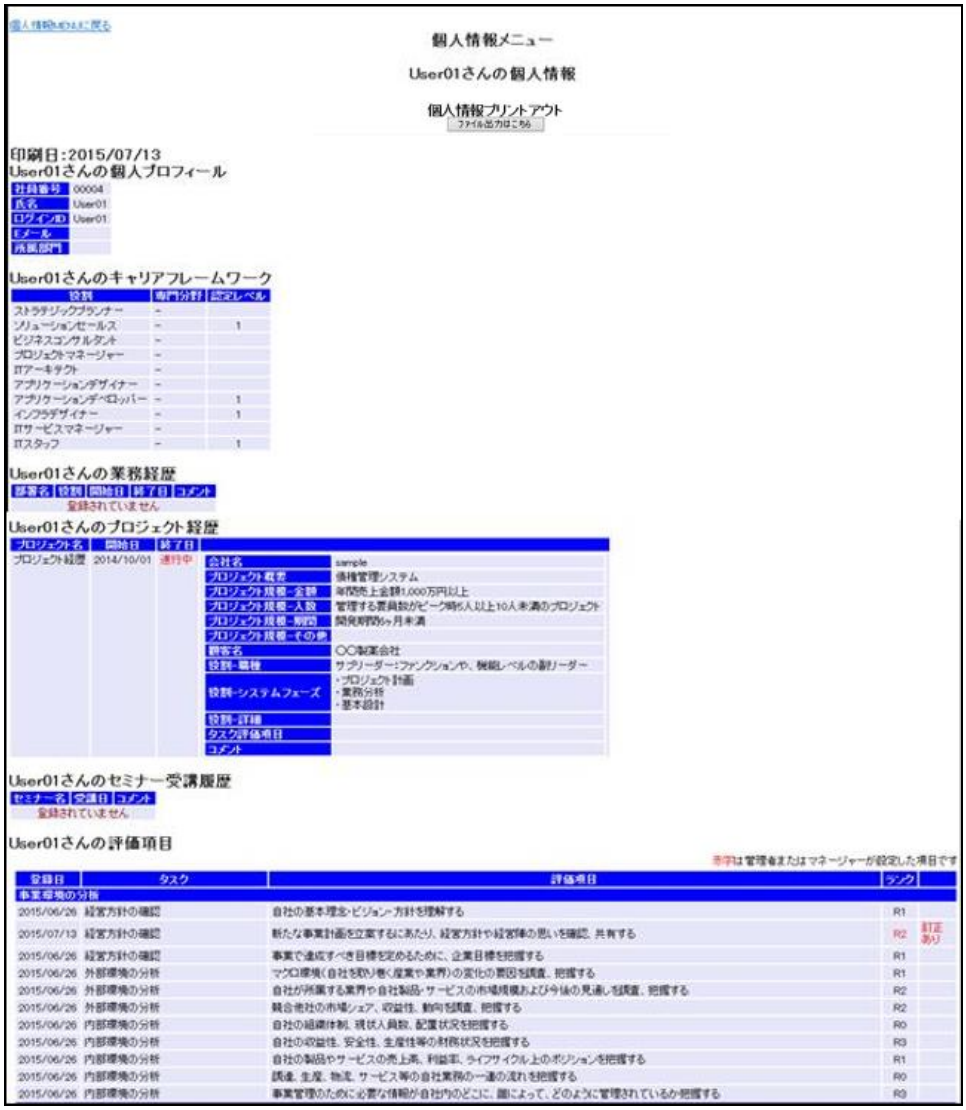
アプリケーション共通基盤設計・構築 判定条件(1, 全領域必須)					レベル条件
全条件必須	1項目以上	アプリケーション共通基盤設計・構築	アプリケーション共通基盤の構築・テスト	設計を踏まえ、アプリケーション共通基盤を構築する	R2
				開発環境上でアプリケーション共通基盤の検証を行う	R2
				アプリケーション共通基盤の維持、管理を行う	R2

ソフトウェア詳細設計 判定条件(2, 全領域必須)					レベル条件
全条件必須	4項目以上	ソフトウェア詳細設計	ソフトウェアコンポーネント設計(機能分割・構造化)	ソフトウェア方式設計で定義したコンポーネントをコーディング、コンパイル、テストの実施に最適な単位のユニットに詳細化する	R2
				すべてのソフトウェア要件が、コンポーネントからユニットへ割り当てられることを確認する	R2
				詳細化されたユニット単位に詳細設計を行う	R2
			入出力詳細設計	コンポーネント間のインタフェースの詳細設計を行う	R2
				コンポーネント毎のユーザインタフェースの詳細設計を行う	R2
				バックアップ、リカバリに関するデータファイル保全処理の詳細設計を行う	R2
			パッケージカスタマイズ・アドオン設計	ソフトウェア方式設計で定義したカスタマイズの内容に基づき、パラメータの設定を決定する	R2
				ソフトウェア方式設計で定義したアドオン機能の詳細設計を行う	R2
				パッケージおよびアドオン機能とのインタフェースの詳細設計を行う	R2
			データサービスの活用	外部データサービスとの連携方式およびデータ構造、インタフェースの詳細設計を行う	R2
				外部データサービスと連携するプログラムおよびモジュールを共有化し、詳細設計を行う	R2
				外部データの取り込みや加工のロジックを決定し、詳細設計を行う	R2
	3項目以上	ソフトウェア詳細設計	ソフトウェアコンポーネント設計(機能分割・構造化)	ソフトウェア方式設計で定義したコンポーネントをコーディング、コンパイル、テストの実施に最適な単位のユニットに詳細化する	R2
				すべてのソフトウェア要件が、コンポーネントからユニットへ割り当てられることを確認する	R2

個人情報プリントアウト

個人情報のプリントアウトを行います。

個人情報メニューの「個人情報プリントアウト」をクリックすると、次のような画面が表示され、個人情報をプリントアウトすることができます。

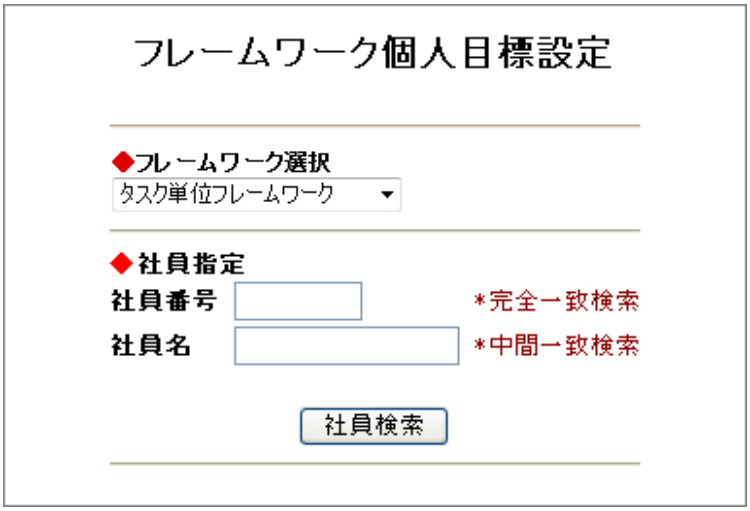


「ファイル出力はこちら」をクリックするとhtmlファイルをzip形式で出力することが出来ます。

フレームワーク個人目標設定

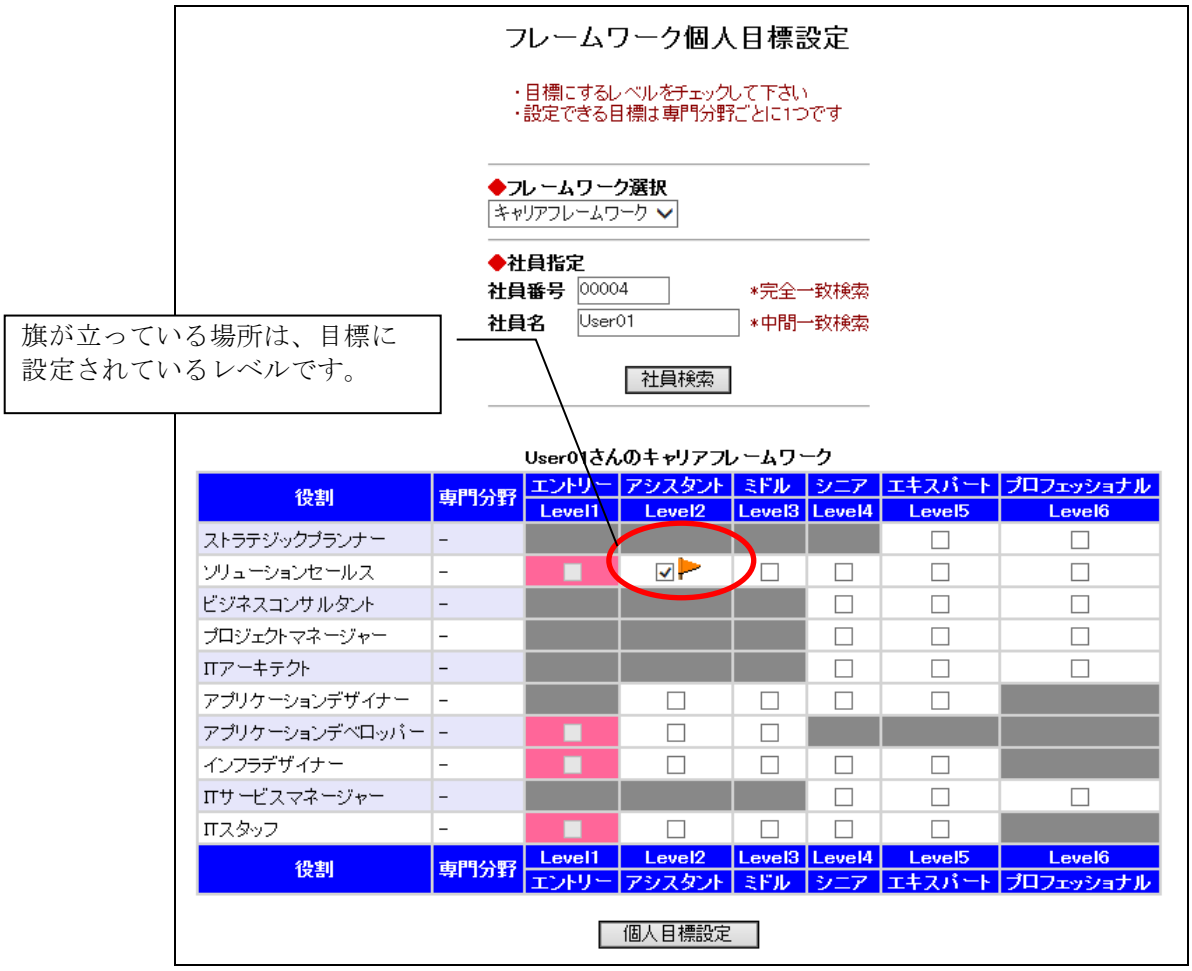
部下の個人目標設定を行います。

メニューの「フレームワーク」→「フレームワーク個人目標設定」をクリックすると、次のような画面が表示され、部下を検索、フレームワークの選択することができます。



「社員検索」ボタンをクリックすると、次のような画面が表示され、部下の一覧を閲覧することができます。

社員選択の「ユーザー」をクリックすると、次のような画面が表示され、個人目標を設定することができます。



「個人目標設定」ボタンをクリックすると、入力した内容でフレームワーク目標レベルが設定されます。

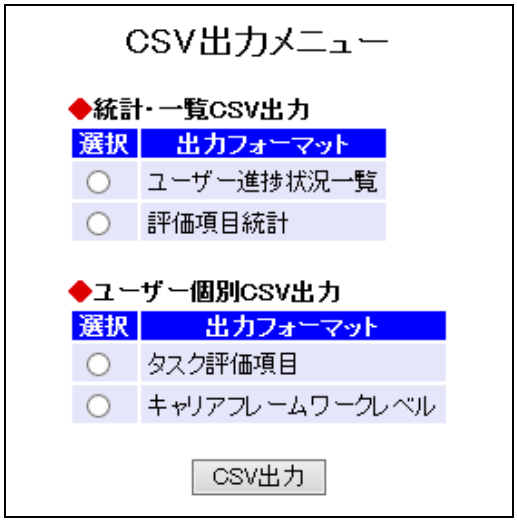
※　取得済みのレベルは目標にはできません。

※　設定できる目標レベルは専門分野ごとに1つです。

CSV出力メニュー

選択した情報をCSVファイルとして、出力します。

メニューの「その他」→「CSV出力メニュー」をクリックすると、出力フォーマットの選択が行えます。

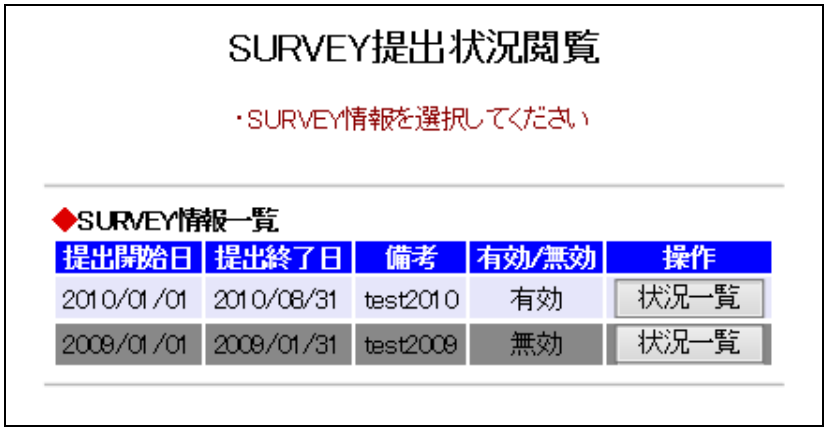


「CSV出力」ボタンをクリックすると、統計・一覧CSV出力フォーマット選択時はCSV出力を行います。ユーザー個別CSV出力フォーマット選択時は、次のような画面が表示され、出力ユーザーの指定を行えます。

社員選択の「ユーザー」をクリックすると、そのユーザーの情報がCSV出力されます。

SURVEY提出状況閲覧

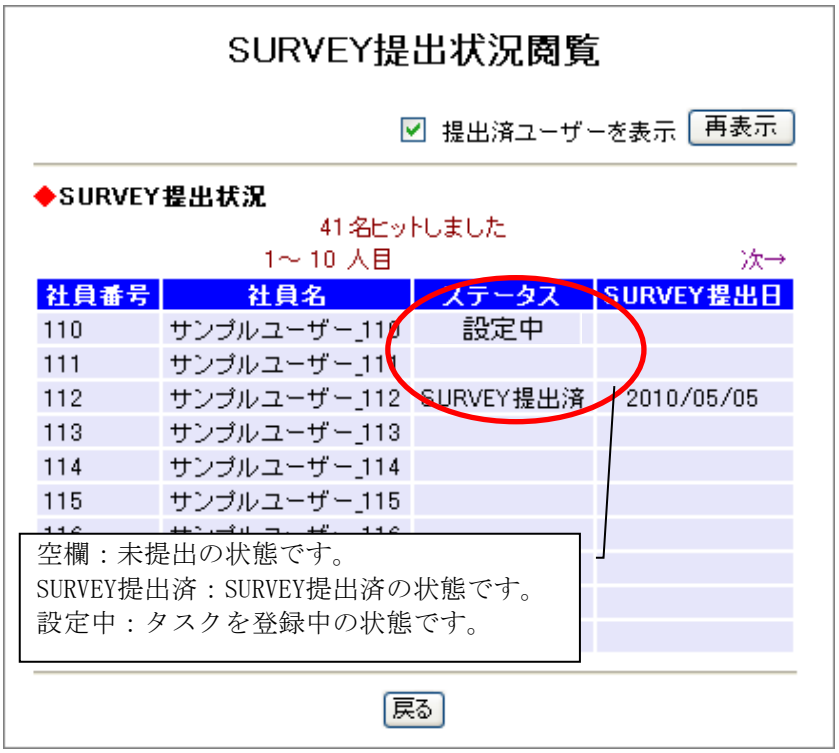
メニューの「その他」→「SURVEY提出状況閲覧」をクリックすると、次のような画面が表示され、部下のSURVEY提出状況の閲覧を行います。



SURVEY提出 状況提出ステータス一覧画面

SURVEY提出状況の閲覧を行います。

SURVEY提出状況閲覧画面の「状況一覧」ボタンをクリックすると、次のような画面が表示され、SURVEY提出状況を閲覧することができます。

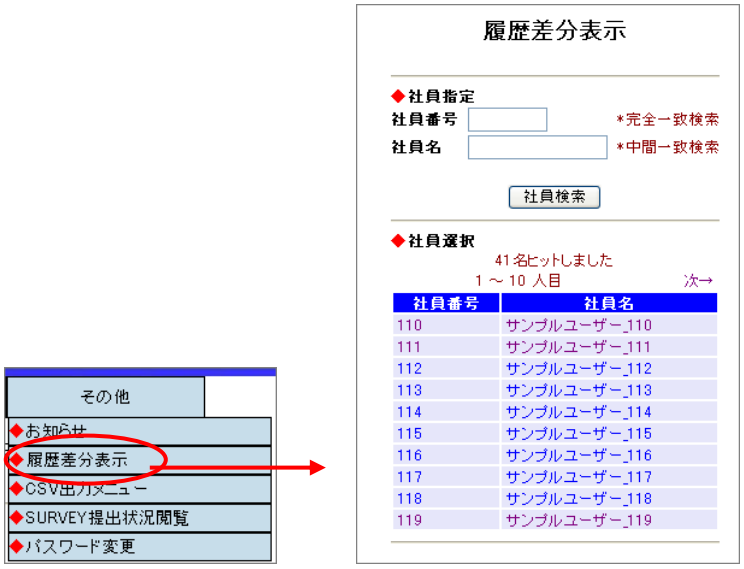


提出済みのユーザーは「提出済みユーザーを表示チェックボックス」をチェックし、「再表示」ボタンをクリックすると確認することができます。

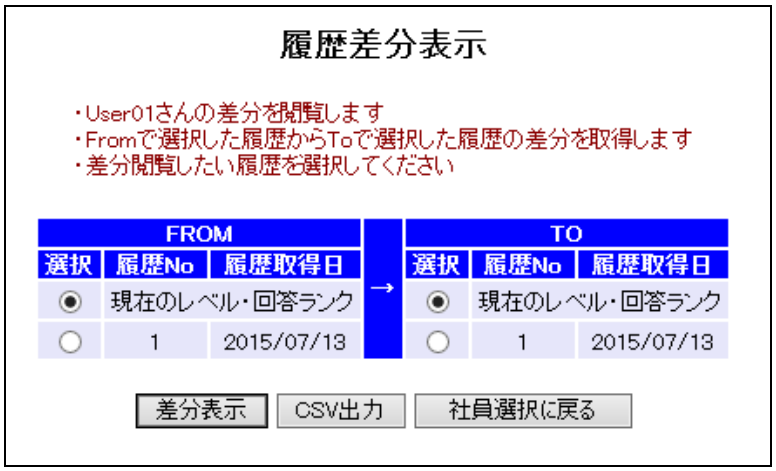
なおステータスの表示はSURVEY提出期間内に提出されたユーザーのみとなります。期間外に提出された場合は、ステータスの更新は行われません。

履歴差分表示

部下のフレームワークのレベルやタスク評価項目の差分を過去の履歴を使用し、表示します。
本機能の使用設定がされており、比較対象となる履歴が管理者にて取得されている場合のみメニューに表示されます。※デフォルトはOFFになっています。



差分を表示する社員を検索し、選択すると次の画面に遷移し、比較する対象を選択できます。



差分表示

比較するFROMとTOの履歴No.を選択し、[差分表示]ボタンをクリックすると、確認アラートの後に差分結果が表示されます。FROMとTOに同じ履歴No.は指定できません。

履歴差分表示

2015/07/13の履歴 → 現在の差分

履歴選択に戻る

■User01さんのキャリアフレームワーク

役割	専門分野	認定レベル
ストラテジックプランナー	-	0 → 0
ソリューションセールス	-	1 → 1
ビジネスコンサルタント	-	0 → 0
プロジェクトマネージャー	-	0 → 0
ITアーキテクト	-	0 → 0
アプリケーションデザイナー	-	0 → 0
アプリケーションデベロッパー	-	1 → 1
インフラデザイナー	-	1 → 1
ITサービスマネージャー	-	0 → 0
ITスタッフ	-	1 → 1

■User01さんのタスク評価項目

タスク	評価項目	回答ランク
事業戦略実行体制の確立		
実現可能性の検証	現状と照らし合わせた事業計画の実現性を確認する	R0 → R1
実現可能性の検証	計画と実際に乖離が生じた場合の実施可能な対応策が立てられていることを確認する	R0 → R1
実施準備	実行計画を部門、職位(ポジション)、職務(役割)毎に整理する	R3 → R1
実施準備	部門・職位(ポジション)・職務(役割)別に目標を必達目標と挑戦的なチャレンジ目標に分けて設定する	R0 → R1
実施準備	全社、部門、チーム毎の目標を定期的にチェックするタイミングを明らかにする	R0 → R1
実施準備	事業計画の遂行を管理する体制を構築する	R0 → R1
実施準備	情報の共有とチェックの方法を明らかにする	R0 → R1
ソフトウェア詳細設計		
ソフトウェアコンポーネント設計(機能分割・構造化)	ソフトウェア方式設計で定義したコンポーネントをコーディング、コンパイル、テストの実施に最適な単位のユニットに詳細化する	R3 → R1
ソフトウェアコンポーネント設計(機能分割・構造化)	詳細化されたユニット単位に詳細設計を行う	R2 → R3

履歴選択に戻る

CSV出力

履歴No.選択後[CSV出力]ボタンをクリックすると、下記出力フォーマット選択画面が表示されます。（”フレームワーク名”はフレームワーク認定レベルの差分を出力します。）

CSV出力

2015/07/13 → 現在の差分

出力フォーマットを決定してください。

選択	フォーマットタイトル
◉	タスク評価項目差分
○	キャリアフレームワーク

CSV出力　履歴選択に戻る

フォーマットを選択し[CSV出力]ボタンをクリックすると、確認メッセージの後CSVファイルが出力されます。

留意事項

フレームワークレベル差分に関して、履歴として保管されているデータはレベル判定結果のみとなります。レベル判定条件の変更等は反映されません。
（変更後のレベル判定条件ではレベル１と判定されていた場合でも、履歴保存時にレベル２と判定されていた場合は、レベル２として表示されます。

また、各情報（役割など）の名称は全て現在のものを使用します。